

	課題分析	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み取ることが必要な学習において、文字は読めているが、内容を理解できていないことがある。</li> <li>自分の考えや気持ちはあるが、他者の考えを受け入れにくい。</li> <li>視写が苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み取った後に、場面のイメージがもてるように働きかける。</li> <li>一対一または少人数グループにおいて、他者の考えを受け止める活動を取り入れる。</li> <li>板書や視写の手本の型を決め、いつも同じ型で文字を写す練習を取り入れる。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名や片仮名、漢字の正確な表記を定着させること。</li> <li>拗音や促音、助詞などの正確な表記を定着させること。</li> <li>伝えたい事柄を明確にし、順序よく表現すること。 (発言、ノート、文章の組立、接続詞など)</li> <li>繰り上がりの足し算、繰り下がりの引き算の定着させること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の書き順や読み方、文中での使い方など、普段の学習から正確に書くように指導する。順序立てて説明したり書いたりする活動を取り入れる。</li> <li>マス計算や暗唱、朝のミニドリルの時間を設定し、学習の流れをつくる。</li> <li>どの教科でも、活動前にめあてをもたせたり、話し合ったり教え合ったりする場を設定する。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>九九や漢字など既習事項の定着が不十分である児童が多い。</li> <li>単純な計算問題は確実に解けるようになってきているが、文章問題や応用問題などへの活用が難しい。</li> <li>文章の読解力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>わり算の学習など、九九をスムーズに活用できるように繰り返し練習し定着を図る。漢字の学習では、既習漢字を反復して練習し、定着を図る。</li> <li>文章を読解する際は、叙述に基づいて正確に答えられるように丁寧に読解することや、見直しをするように指導する。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の学習の実態から、本学年の特性として国語の文章読み取りについて理解の低い場面が多く見受けられる。</li> <li>算数では四則計算の手順の理解、習熟が各個人の理解に合わせて必要であると言える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「主体的・対話的な深い学びの実現」に向けた授業のために、各授業の中で児童による、言語活動（ディスカッション活動やファシリテーション活動）の充実を図る。</li> <li>タブレット端末（「ドリルパーク」など）を活用した、個人毎の習熟に合わせた繰り返し学習を行うことで主体的に学習を進め、理解を深めていく。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手意識をもって自分の考えを伝えること。</li> <li>意味を理解している語句を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句（思考に関わる語句も）を増やすこと。</li> <li>筋道の通った文章を書くこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表や文章を書く際には、「誰に向けて伝えるのか。」を意識できるように全体で確認する。</li> <li>児童の発言や文章から優れた表現を全体に紹介し、言葉の使い方に対する感覚を豊かにする。</li> <li>文章を書く際には、構成の組み立てメモを作成してから書くようにする。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や意図に応じて、自身の考えを形成し、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えられるようになること。</li> <li>自分の考えが伝わるように表現すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元および授業のめあてを明確にし、自分の考えがもてるようなスモールステップを用意する。</li> <li>自分の考えを発表させる際は、結論から先に述べ、その後に理由を述べさせる。</li> </ul>
専科	<ul style="list-style-type: none"> <li>予想や仮説を基に、解決の方法を考え、表現すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題に対して、既習事項や日常体験から自分の予想や仮説をもたせることで、主体的に取り組ませる。</li> </ul>